

研究構想図

【研究主題】 「誰もが進んで考えを伝え合う学級活動」

～思いや考えを伝え合う場の工夫を通して～

【学校教育目標】

「考える子」 「やさしい子」 「たくましい子」

【児童の実態】

- ・主体的に問題解決をしようとする意識が足りない。
- ・課題設定、話し合いの集約、折り合いの付け方が難しい。
- ・話し合いの中で賛成や反対意見を募り、多数決で決めることはできる。

【小学校学習指導要領】

育成を目指す資質・能力とは

- 人間関係形成（違いを認め合い、みんなと共に生きていく力を育てます。）
- 社会参画（よりよい集団や社会をつくろうとする力を育てます。）
- 自己実現（なりたい自分に向けてがんばる力を育てます。）

【保護者・地域の思い】

- 学力向上
- 学校教育活動へのサポート

【目指す児童像】

- 相手に伝わるように表現する力を高め、友達と協力しながら主体的な話し合いをすすめていくことができる子
- 集団活動を通して、自己有用感を高め、よりよい人間関係の実現のため合意形成に向けた話し合いができる子
- 自己を見つめ、なりたい自分を目指せる子

【低学年】

- ・話し合う内容について、自分の考えをもつ子
- ・友達の意見をよく聞き、他者の考えを大切にすることができる子
- ・学級活動を通して、生活をよくするために行動することができる子

【中学年】

- ・理由を明確にして、自分の考えを伝えられる子
- ・自分の考えと比べながら、他者の意見を受け入れようとする子
- ・自分のよさや役割を自覚し、よく考えて行動する子

【高学年】

- ・自分の意見と他者の意見の共通点や相違点などに気づき、合意形成に向けた話し合いができる子
- ・集団活動を通して、よりよい人間関係を築ける子
- ・高い目標をもって粘り強く努力し、自己のよさを伸ばすことができる子

【研究仮説】 学級経営の充実に向けて、多様な集団活動を通して、支え合い、高め合う集団を目標に学級会を行えば、望ましい人間関係の育成や自己研鑽につながると考える。話し合いを進めていく上で、お互いの考えを受け止め合おうとする態度やスキルを身に付けければ、自分の思いや考えを伝え合うことができる。また、話し合いのねらいを明確にすれば、自分の思いや考えをもち、伝え合うことができると考える。そして協働的な話し合い、実践、振り返る経験を積み重ねていくことで、課題解決に向けて自ら取り組むことができるようになると思う。

【研究主題に迫る手だて】

特別活動の資質・能力

【築きたい人間関係】
「個と個」や「個と集団」の関わりの中で互いのよさを生かし、協働して取り組み、より良い人間関係を築こうとする視点

育成すべき資質・能力における三つの視点が
関わり合って成長していくことを示したもの。

【つくりたい社会】
児童が現在、そして将来に
所属する様々な集団や社会
に対して積極的に関わり、
よりよいものにしていく
とする視点

【なりたい自分】
将来を見通して、今自分にできる
ことを考え、よさや可能性を生か
して実践しながら、よりよい自分
づくりを目指す視点